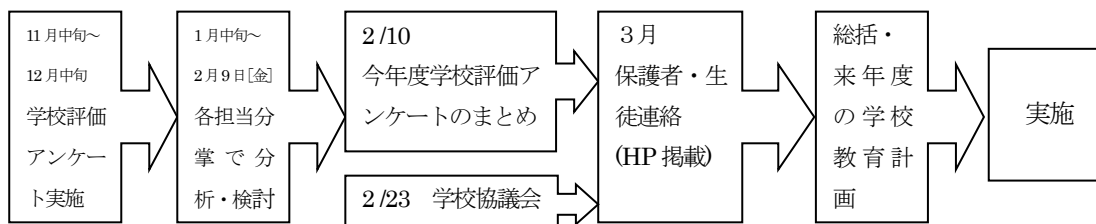


平成29年度 学校評価アンケート(学校教育自己診断) 回答のまとめ

学校評価アンケート実施スケジュール



生徒回答集計

回答数 162 (提出率55%)

A: 肯定的回答(よくあてはまる・ややあてはまる)

前年度比較・・・(肯定的-否定的) 10%↑、20%↑↑
-10%↓、-20%↓↓

B: 否定的回答(あまりあてはまらない・まったくあてはまらない)

検討・・・コメントを掲載している分掌等

(数値は%)

	設問	A	B	比較	検討
1	入学前、本校について十分調べて受験した。	44	56	↑	
2	受験は、自分の意志で決めた。	75	25	↓	
3	学校に行くのは楽しい。	60	40		1・保
4	学校のコース選択や単位取得、選択科目、履修などのガイダンスはわかりやすい。	72	28		教・3・4
5	学校の授業は、プリントスライド、映像等の補助教材を使うなどの工夫をしている。	83	17		教・情・各教科
6	学校の授業の内容についていける。	76	24		教・各教科
7	学校の授業の説明はわかりやすい。	78	22		教・各教科
8	学校の授業中は、落ち着いて学習できる。	64	36		生・1・各教科
9	ゼロ時間目の授業を知っている。	79	21	↑	教
10	土曜講座を知っている。	72	28	↑↑	教
11	ゼロ時間目の授業を受けてみたいと思う。	29	71		教・情
12	土曜講座を受けてみたいと思う。	33	67	↑↑	教
13	生徒の興味や関心、進路希望に応じて選べる選択科目がある。	71	29	↑	教・情・各教科・進
14	学校は、奨学金制度についてきちんと説明している。	74	26		進・3・4
15	ホームルームなどで、自分の将来について考える機会がある。	79	21	↑	進・各学年
16	学校は、就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる。	80	20		進・3・4
17	体育祭、文化祭などの学校行事はみんなが楽しく行えている。	77	23		生・各学年・保
18	ホームルーム活動(金4時限目)は必要だと思う。	74	26		各学年
19	外部(学校外)の講師による講演会は有意義だと思う。	72	28	↑	各学年・生・進

	設 問	A	B	比較	検討
20	学校生活についての先生の指導については理解できる。	81	19		生・1
21	命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある。	79	21		人
22	学校内で地震や火災が起こったとき、どのような行動をすればよいか知らされている。	86	14		保
23	学校の部活動は必要だと思う。	70	30		生
24	担任の先生以外にも職員室、保健室等で気軽に相談することができる先生がいる。	62	38	↓	保・相・各学年
25	教室や体育館などの設備は、学校生活が送りやすいように整備されている。	75	25		保・体
26	教室以外にも学校内に自分の居場所がある。	65	35		保・図書 各学年
27	自分は、あいさつをするようになった。	68	32	↓	生・1

保護者回答集計

回答数 66 (提出率23%)

A: 肯定的回答(よくあてはまる・ややあてはまる)

前年度比較・・・(肯定的-否定的) 10%↑、20%↑↑

-10%↓、-20%↓↓

B: 否定的回答(あまりあてはまらない・まったくあてはまらない)

検討・・・コメントを掲載している分掌等

(数値は%)

	設 問	A	B	比較	検討
1	入学前、本校について十分調べ受験させた。	73	27		
2	受験は、本人の意志で決めた。	94	6		
3	学校に行くのは楽しいようだ。	86	14	↑↑	1・2
4	学校は、コース選択や単位取得、選択科目、履修などについてわかりやすく伝えている。	86	14		3・4
5	学校は、単位制としての教育方針をわかりやすく伝えている。	91	9	↑	教・2
6	学校の授業はわかりやすいようだ。	91	9	↑	各教科
7	学校の授業中は、落ち着いて学習できるようだ。	77	23		生・1・各教科
8	ゼロ時限目の授業を知っている。	88	12	↑	教
9	土曜講座を知っている。	59	41		教
10	生徒の興味や関心、進路希望に応じて選べる選択科目がある。	77	23		教・進
11	担任その他の教員に相談しやすい。	91	9	↑	保・相・各学年
12	学校の様子をホームページ、寝屋定メール、懇談や配布プリントなどによって知ることができる。	77	23		保・各学年・情
13	学校の授業参観や体育祭、文化祭等に参加してみたい。	76	24	↑↑	生・P
14	学校は、奨学金制度についてきちんと説明している。	86	14	↑	進・3・4
15	学校は、就職や進学について、適切な指導を行っている。	83	17		進・3・4
16	学校の生徒指導の方針は、理解できる。	94	6	↑	生・1
17	学校は命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会を作っている。	78	22	↑	人
18	学校は、災害時の対応や防災や防犯等の生徒の安全確保について伝えている。	88	12	↑↑	保・人
19	保護者同士の交流があつたらいいと思う。	38	62	↑	P
20	学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている。	86	14		各学年
21	本校に通学することで日常生活により影響を与えているようだ。	91	9	↑↑	2
22	子どもは、以前と比べるとあいさつをするようになった。	89	11	↑↑	生・1・各教科

評価結果を受けての各分掌等での検討事項 生徒と保護者の評価結果について

※(評価結果の見方) P1 から P2 の生徒の設問が 1 番から 27 番、P2 の保護者の設問が 1 番から 22 まであります。

[例] (生 4、保 4・5) は、生徒の設問の 4 番「学校のコース選択や単位取得、選択科目、履修などのガイダンスはわかりやすい。」と保護者の設問の 4 番「学校は、コース選択や単位取得、選択科目、履修などについてわかりやすく伝えている。」と保護者の設問の 5 番「学校は、単位制としての教育方針をわかりやすく伝えている。」に関して、各分掌、教科、学年、委員会等が、昨年度と比べての数値の増減を分析しています。

教務部

(生 4、保 4・5) 肯定的回答増加。合格者・新入生・通信制オリエンテーション等の説明会においてスライドを用いて視覚的に説明した。本校独特のシステムをわかりやすく伝えるかを意識した結果である。

(生 6・7、保 6) 今年度は、「授業見学週間」「授業の映像チェック」を実施した。教科の枠を超えて個々の授業力向上に向けて、今後も学校全体で取り組んでいきたい。

(生 5) 肯定的回答多数であるが減少。5 分の休憩時間で教員が I C T 機器の準備をするのは困難な状況ではあるが、11 月末に全定共用教室全てにプロジェクターが整備された為、今後は準備の負担が軽減される予想だ。1 月に新しいプロジェクターに関するガイダンスを全教職員に向けて実施した。視聴覚的教材を取り入れ、工夫された授業が各教科でさらに多く実施されるように、I C T 活用のための環境整備を今後も進めていきたい。

(生 9・10・11・12、保 8) 肯定的回答少数ではあるが増加。ゼロ時限目や土曜講座については、仕事等と両立している生徒は受講が困難であるため、例年通りやむを得ない結果となっている。合格者説明会時から案内した結果が、肯定的増加につながったのではと考える。

生徒指導部

(生 8、保 7) 生徒の肯定的回答が 2%減であるが、保護者は昨年同様、肯定的回答多数。平成 28 年度より実施の携帯指導は、今年で 2 年目になる。教員の中でも少しずつ指導に対する緩みが出てきており、生徒たちも教員にばれないように、携帯電話を使用するようになってきている。また年度内に教員の入れ替わりもあり、指導の徹底がスムーズにいかない面もあった。来年度はスタートからもう一度教員間で意思統一して、指導に当たっていく必要がある。

(生 17、保 13) 肯定的回答が生徒は 3%減、保護者は 13%増。生徒会や部活動に参加している生徒を中心に、生徒が役割を担って行く生徒主体の学校行事になってきているという良い面もある。今後、生徒達の満足度を上げられるように各学年とより連携して行事の計画を進めていく。また生徒が学校行事を楽しんでいる様子が、家庭に伝わっている証拠だ。今後も、生徒一人ひとりが行事で活躍でき、保護者の方々も楽しめることができる場を提供できるような企画を検討したい。

(生 19) 肯定的回答が 8%増。寝屋川警察署と連携して、1 年生に「非行防止」、2 年生に「薬物乱用」をテーマにした講演をしていただいた。自分の身近に起こりうる内容の話の話を聞き、生徒にとってためになったようだ。しかし、一部内容が難しかったという感想もあるので、できるだけ事前に打ち合わせをして講演会に臨みたい。

(生 20、保 16) 肯定的回答が生徒は 2%減。保護者は 9%増。担任を中心に、家庭と密に連携を取り生徒の指導に当たっている。また各学年と連携を密に図り、毎年寄り添った粘り強い指導を続けている。しかし指導の際に、「知らなかった」や「聞いていない」等、言い訳をする生徒がいるのも現状である。まずは、新入生の合格者説明会等での説明内容を見直し、入学前からの早い段階で、保護者も巻き込んだ、学校生活についての指導の徹底を図りたい。

(生 23) 肯定的回答が 2%減。例年に比べ、部活動の加入者数が増えており全体的に部活動の活性化がなされた。

(生 27、保 22) 肯定的回答が生徒 9%減、保護者 10%増の肯定的回答多数。登下校時に門で生徒に声掛けをし、あいさつをしている。結果以上に自分からあいさつをする生徒が増えているように思う。

(生徒の結果に関して)

授業だけでなく行事や部活動等に対して意欲的に取り組もうとしている生徒が、例年に比べて増えているように感じる。そのような教育活動が活性化する一方、生徒間の縦や横のつながりが強くなり、授業規律を守れない生徒が出てきているという面もある。学校生活を送る上で、生徒の規範意識について、教員間で共通意識を持って指導していかなければならない。

(保護者の結果に関して)

今回の結果を受けて、保護者の学校に対する信頼度が上がっているように思う。学校行事などを通して、生徒のイキイキとした様子を保護者に見せられ、今後の学校行事がより良いものになるよう検討していきたい。指導面においても、これまで以上に家庭との連携を密に取っていけるよう学校としての体制を整えていく。

進路保健部

(生 14、保 14) 保護者の肯定的回答増。今後もホームページへの掲載等、きちんと情報を伝えていく。

(生 15) 生徒の肯定的回答増。外部の人材を多く活用した結果かと思われる。生徒自身が感じたり、考えたことを進路指導に活かしていきたい。

(生 16、保 15) 大きな増減なし。就職・進学に関する進路通信等の情報が、生徒と保護者ともに十分伝わるよう工夫する必要がある。

(生 22、保 18) 保護者の肯定的意見が増加しているが、文化祭での防災コーナーの成果、避難訓練実施方法を確立できたことの成果だと考えられる。

国語科

(生 6・7、保 6) 日頃から、教員間で教授法や授業内容についての相談をしたり、他校の授業見学内容や資料の共有に努めている結果と考えられる。また、ユニバーサルデザインに基づく教材の作成や授業展開を心がけていることも、この結果に反映されているのではないかと。

社会科

(生 5) 肯定的回答 2%減。授業で映像を用いるために AV ホールで授業をしたり、教室に備えているプロジェクターを使ってパワーポイントで作ったスライドを見せている授業がある。

(生 6) 肯定的回答 2%減。講義が中心の授業が多いので、出席者の様子を見ながら学習内容や量を配分し、わかりやすく説明している。

(生 7、保 6) 肯定的回答は、生徒 2%減、保護者 6%増。わかりやすい丁寧な説明と視聴覚教材を用いた明快な説明をしている。

(生 8 保 7) 肯定的回答は、生徒 2%減、保護者同じ。授業中に騒がしくなることはほとんどない。1年生がややにぎやかだが、授業規律は確立されている。

(生 13) 肯定的回答 5%増。選択 B の国際研究や選択 C の環境問題研究、ゼロ限の社会常識入門が開講されており、生徒の興味や関心、進路希望状況に対応している。

(保 22) 肯定的回答が、保護者 10%増。携帯指導の導入に伴い、授業の始まりと終わりのあいさつをするようになったが、何人かの生徒はあいさつを返している。

数学科

(生 6・7、保 6) 各担当者間で授業内容等の相談をこまめに行い、授業の打ち合わせをしている。生徒の状況に応じ、授業の展開をしているので、この結果に反映されているのではないかと。

(生 13) 進路希望 (大学進学) を考えると数学Ⅲの授業があるほうが望ましい。

理科

(生5・6・7・8) 教科内での情報交換などが不十分であったため、生徒が教員側を向いていない授業や、わかりにくい授業があったと感じている。次年度はより情報交換を行えるよう努力する。

(生1・3) 時々、科目の内容を全く理解しないまま選択している生徒がいるので、そのミスマッチを防ぐよう科目選択時には注意して指導したい。

保健体育科

(生25) 教室や体育館などの設備は、学校生活を送りやすいように整備されている。グラウンド、プール、テニスコートの照明を設置していただければ、より多くの種目を授業で行うことができると思う。

芸術科

(生5・7、保6) 授業でVTRカメラを用い、制作過程をモニターTVに映しながら授業を行っている。美術の授業内容は制作を含め視覚伝達を主とする為、映像を用いた授業展開は生徒の理解促進に有効である。HR教室にはプロジェクターが設置されたが、美術教室にも是非設置していただきたい。

(生6) 芸術科では実技が中心の授業であるので、毎時間欠かさずに授業に出席している生徒ならば、誰でも取り組める内容となっている。

英語科

(生5・6・7・8、保6・7) 習熟度別少人数展開授業の成果である。教材の使用法については、ICT機器をもっと効率的に行いたい。

(生1・3) 選択科目の説明を分かりやすくまとめた。また、授業内で各時限の目標を伝えたり、学習内容の目的を説明することも取り入れた。

家庭科

(生5・6・7) 授業では半分以上ICTを活用し、写真や映像を効果的に使用し、理解を深めるよう工夫をしている。それが、この結果に反映されているのではないかと。

(生13) 今年度より、4年生選択科目に家庭科の課題研究ができた。必修科目での家庭科は第2学年までしかないと、興味や関心のある生徒は、選択により家庭科を学ぶことができるようになった。それが、この結果に反映されているのではないかと。

(保22) 授業の中でマナーについて学ぶ機会等があつて、この結果にもつながったのではないかと考えられる。

情報科

(生5) LAN教室はスライド、映像など補助教材を使用しやすい環境のため、積極的に活用しているためこの結果だと考える。

第1学年

(生3、保3) 肯定的回答は、生徒4%減、保護者10%増。1年生はクラブに入っている生徒の割合が多く、楽しそうに登校している生徒が多い。特に1年生は生徒に寄り添う指導が不可欠であり、他学年に比べて手厚くなっているが、大人不信であった生徒が担任を信頼するようになっていく姿もよく見られ、今後もしっかり面倒を見ていける体制を継続していく必要がある。また「定時制に通わせてよかった」「子どもがいきいきしていると感じている」「生徒が学校の話の家でよくする」という保護者の声を担任の先生らがよく聞いているようだ。

(生8、保7) 生徒の肯定的回答が2%減であるが、保護者は昨年同様、肯定的回答多数。クラスの雰囲気のことを聞いているのか、生徒個人の心情を聞いているのか不明。1年生は上級生と比べるとにぎやかである。単にうるさい、騒がしいということではなく、授業中、発問に反応したり、質問をしたりする等、授業に参加しようとする姿勢もよく見られる。授業によっては、規律が乱れ騒がしいときがあり、担任による入り込みなど、授業担当の先生と連携して指導にあたる必要がある。また、指導するにも日頃からの関係作りが大切である。

- (生 15) 肯定的回答 6%増。進路 HR や各種アンケートが定期的に実施されている。進路 HR は詳細なマニュアルが用意されており、しっかり準備して臨めるので、生徒も真剣に取り組んでいる。
- (生 19) 肯定的回答が 8%増加。今年度 1 年生では情報モラル講演会、タバコ講演会、非行防止教室を実施した。特に情報モラル講演会は生徒の食いつきもよく、有意義であった。
- (生 20、保 16) 肯定的回答が生徒は 2%減。保護者は 9%増。各先生方の「寄り添う指導」が充実しているということだと考える。
- (生 24、保 11) 肯定的回答は生徒 8%減、保護者 9%増。「担任の先生以外」という質問の仕方が、結果に影響していると考えられる。担任を含めた聞き方だともっと肯定の数値は上がるだろう。ただ、保護者の回答は、十分高い数値で、信頼関係がしっかりしている証である。
- (保 12) この質問に回答している保護者は、生徒からプリント等を渡してもらっているのも、妥当な結果だ。
- (保 20) 電話連絡や文書による連絡をはじめ、懇談や家庭訪問等をしっかり行っている。

第 2 学年

- (生 2・18・19) 日頃から生徒に対してホームルームの重要性を説き、この時期から進路について考えさせる内容を扱うことが、数値の向上に繋がっていると考え。外部の講演会では、講師の方が積極的に生徒とコミュニケーションを図ってくださっていることもあり、毎回生徒がしっかりと考え、楽しみながら参加している。
- (生 24・26・保 11) 昨年の 4 クラスから 2 クラスになり、担任も各クラス 1 人になったことが、数値の低下に繋がっていると考えられる。しかし、昨年担任をしていた先生方が関係をしっかりと築いてくれたので、生徒は現担任以外にも授業担当者にも話を聞いてもらいやすい先生がいると感じていると思うし、保護者にもそのことが伝わっている。また保健室との連携が密になった結果もあり、女子生徒は、学年団が男性教員のみであることから、女性教員に話を聞いてもらう場合もあると感じる。
- (保 3) 学校生活を 1 年間経験し要領が分かってきたこと、クラス編成により話をする友達が増えたことが、数値の向上に繋がっている。学校行事の連絡が、特に生徒から保護者へ伝わっており、保護者も実際に行事へ足を運んでくださっていることも影響している。
- (保 5) 懇談で卒業に関すること、単位修得に関することを随時伝えている。
- (保 12・20・21) 保護者へ渡して伝えるべき内容は、ホームルームで念押ししている。家庭連絡も昨年度と同様に行っている。また「自分のことを少しずつ管理できるようになること」、「周りのことを考えた行動をとること」を 4 月から生徒に伝えており、その指導の成果が学校外でも出ているのではないかと考える。

第 3 学年

- (生 9・10) 「ゼロ時間目の授業を知っている」は、10%以上 Up で、「土曜講座を知っている」は、20%以上 Up。第 3 学年では卒業へ向けて単位数を確保させるために、多くの生徒にゼロ時間目と土曜講座を推奨している。多くの生徒が履修しているが、実際に授業を受ける生徒が少ない。
- (生 15) 10%以上 Up。HR の出席状況が良く、進路 HR や講演会などによって、自分自身の進路について考える機会が多いからだと考えられる。
- (生 24) 10%以上 Down。担任と生徒との信頼関係が構築されており、担任にまず相談する生徒が多いためであると考えられる。
- (保 13) 四月当初から行事へ参加することの大切さを、教員が生徒へ促すことにより、学校行事への参加率が向上し、友人関係が増えていることが要因だと考えられる。生徒は保護者にも学校の話をするようになり、保護者の関心が高まったのではないかと。
- (保 22) 「生 27 自分はあいさつをするようになった」では減少であったが、保護者から見ると、あいさつをするようになったとの回答が増加している。生徒自身は、本校で数年間生活をする事により、あいさつをすることが当たり前になっており、自覚がないだけなのではないかと考えられる。実際、今年の 1 月には 3 年生の多数の生徒が職員室へ来て、教員に新年のあいさつをしていた。

第4学年

(生 4) 本校の複雑な進級規定などからすると、わかりにくいと答えている生徒が少ないと思われるが、資料や担任の指導の成果と思われる。(全体に関して) 結果を学年別に集計するとより良い検討ができると思われる。

PTA 定時制委員会

(保 13) 学校行事への保護者の参加が増えており、保護者の関心が学校に向いている。生徒の活躍を実際の行事で目の当たりにすることは大切なことであるので、今後も保護者の参加を増やすように広報活動に努めたい。
(保 19) 保護者同士の交流の場がPTA活動である。PTA定時制委員の人数も増えてきており、交流が進んでいる。今後も、PTA活動を通じて、保護者の交流の場を増やしたい。特に、定時制委員会主催の講演会が保護者支援に役立っており、良い企画であり、その講演会が保護者の交流の機会にもなっている。

人権教育推進委員会

(生 21・保 17) 「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある。」に関して、昨年より肯定的意見が生徒 2%、保護者 9%増加である。人権教育関係の HR (各学年2回) といじめ防止 HR の内容 (指導テーマとその指導方法) を系統的に構築することが完成した。次年度以降は人権関係の基本事項について理解を深めるため、年次進行で人権 HR を追加する予定である。

教育相談委員会

(生 24・保 11) 生徒の相談に対しては担任の先生が十分対応されており、一般的には担任以外の先生に相談することの必要性を感じる生徒は少ないのではないかとと思われる。また、担任以外でも、保健室の先生や部顧問の先生が必要に応じて相談を受け付けている。問いを「担任の先生も含め、気軽に相談できる先生がいるかどうか」に変更して生徒の声を聞いてみたい。一方、保護者の意見については肯定的で、担任の先生が保護者に対して電話連絡等による家庭との連携を密に取り、寄り添うような配慮を伴った対応をされている結果である。

情報処理委員会

(生 5) 今年度はプロジェクターが各教室に設置されたことで、利用する先生が増えたと思う。
(保 12) ホームページを新しく作り変えた。未完成な部分もあるが、行事などの情報提供はできていると考える。

図書委員

- (生 26) 「教室以外にも学校内に自分の居場所がある。」は、肯定的回答が 2%増。
- ・今年度は平常時間以外の開館を増やした。(夏休み前の放課後、夏休み中の 17 時から 19～20 時頃迄。)
 - ・図書室の利用者は大体決まっており、教室整備迄や 1 限開始迄の待機、または友人との待ち合わせ場所として利用されている。また考査期間中は自習や待機場所として、利用者が増えており、本の利用だけでなく、来やすい雰囲気づくりを心がける。